

# 東奥日報 5/2（月）熊本地震急増するエコノミー症 「弾性ストッキングで防げ」静脈学会、避難所で配布 （胸部心臓血管外科学講座 福田幾夫教授）の記事 が掲載されました

“熊本地震の発生後、熊本県内でエコノミークラス症候群の患者が急増していることから、外科医らでつくる日本静脈学会が、発症予防に有効な「弾性ストッキング」を避難所で配布している。同学会の副理事長で、弘前大学大学院医学研究科・胸部心臓血管外科学講座の福田幾夫教授（62）は「せつかく地震の難から逃れられた命が、この疾患で奪われることがあってはならない」と注意を呼び掛けている。”と紹介されています- (鎌田秀人記者)

熊本地震 急増するエコノミー症

## 弾性ストッキングで防げ

静脈学会、避難所で配布



被災地で配布された弾性ストッキング（メーカー提供）

**副理事長の注意呼び掛け**  
**福田幾夫教授**

熊本地震の発生後、熊本県内でエコノミークラス症候群の患者が急増していることから、外科医らでつくる日本静脈学会が、発症予防に有効な「弾性ストッキング」を避難所で配布している。同学会の副理事長で、弘前大学大学院医学研究科・胸部心臓血管外科学講座の福田幾夫教授（62）は「せつかく地震の難から逃れられた命が、この疾患で奪われることがあってはならない」と注意を呼び掛けている。（鎌田秀人）

【3面参照】



エコノミークラス症候群は、長時間同じ姿勢を続けることで、静脈で血が固まるのが原因。福田教授は、同症候群などによる血栓が、肺に詰まる肺塞栓症を専門としている。

福田幾夫教授 トよむ、日  
同教授に

熊本地震の被災地ではエコノミークラス症候群の発症が急増している。写真は東日本震災の避難所で、弾性ストッキングをはかせる弘大スタッフ。2011年4月、岩手県陸前高田市提供（写真）

本静脈学会は循環器系の学会は17日、熊本県内の地震が相次ぎ、避難者の車中泊が長引くことが想定されることから、被災者にエコノミークラス症候群への注意を促す共同声明を発表。福田教授が声明の草案を作成すると、弾性ストッキング配布に動き出した。

既に被災地に1万5千足がストッキングメーカーの協力で到着。地元の保健師を通じて配布されている。今後の財源には各種の寄付や国の財政負担などを想定している。

弾性ストッキングは医療器具の一つ。見た目は一般的なストッキングとほぼ同じだが、膝裏から足首に近づくと締め付けが強くなり、足の静脈から血液が送り出されやすい。血液のたまりやすい心臓は、血流が滞るのを防ぐことにより、血栓の予防を図っている。医療現場では、手術後などで血が固まりやすくなっている患者が着用している。

福田教授は「2004年の新潟県中越地震でもエコノミークラス症候群が相次いだ」と指摘。「今後、避

難所では、ストレスによる心筋炎の注意も必要だ」と警戒している。

日本静脈学会は今年6月23、24日に弘前市内で、全国約600人規模の総会を開く予定。総会に合わせ、同25日には看護師などを対象に弾性ストッキングの着用やドバイスするコンタクトー養成講習会も開く。

(平成 28 年 5 月 28 日東奥日報社提供)

※ この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。